

令和3年度第2回（仮称）新大田区生涯学習推進計画策定会議 議事要旨

日時 令和3年10月21日（木）午前10時から正午まで

場所 東京工科大学3号館20階第1会議室

出席者 名和田委員（会長）、遠山委員（副会長）、笈川委員、大島委員、
柏原委員、河合委員、倉持委員、白鳥委員、鈴木委員、松野委員、
村上委員代理増元校長、和田委員（役職・50音順）

※雨笠委員欠席

以下、敬称略。

1 開会

2 会長挨拶

【会長】

- ・ 本日は、生涯学習計画の骨子案について審議を十分にさせていただきたい。
- ・ 前半は、前回は議論いただいた現状分析について、後半は骨子案、目指す方向について、重点的に議論をお願いしたい。

・

3 地域力推進部長挨拶

【地域力推進部長】

- ・ 副会長である遠山委員のお取り計らいで、東京工科大学の会議室をお借りすることができた。
- ・ いつもと気分を変えて、良い議論ができるのではないかと期待している。
- ・ 第1回の策定会議から、これまでの間に区民・団体アンケート調査を行ったので、それも含めて、現状と課題を整理し、それらの課題を克服できるような理念と施策体系の案を骨子案としてまとめた。
- ・ 皆さまのそれぞれの御知見から御意見をいただきたい。
- ・ 策定の過程で、施策、事業について、大田区らしさを出していきたいので、こちらについても御意見ををお願いしたい。

4 傍聴人の入室

【会長】

- ・ 策定会議の公開について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ 策定会議設置要綱第7条に「策定会議は、原則として公開する。ただし、1 公開することにより公正かつ中立な審議に著しい支障を及ぼすおそれがあると認められる場合、2 特定の者に不当な利益又は不利益をもたらすおそれがあると認められる場合、3 議案に個人情報が含まれている場合は、会長は会議の全部又は一部を非公開とすることができる」とある。本日の会議内容には、それらに該当する内容は入っていないと認識している。
- ・ 会議結果については、議事要旨を作成し、各委員に確認のうえ、区ホームページに公開する。

【会長】

- ・ 会議の公開について、会長が決めるということになっているようだが、私の独断で決めるわけではない。私の考え方としては、事務局の認識の通り、本日の会議を公開し、傍聴を希望する方にも議論の中身を知っていただきたいと考えるがいかがか。

(異議の声なし)

- ・ 本日の会議は公開とする。
- ・ 傍聴人の方を案内いただきたい。

5 議題1 大田区の生涯学習の現状と課題

【会長】

- ・ 第2回（仮称）生涯学習推進計画策定会議の議題に入る。議題1「大田区の生涯学習の現状と課題」について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ (骨子案に基づき説明)

【会長】

- ・ 事務局からの説明について、ご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。

- ・ この部分は、議題2の基本理念、施策体系につながる場所なので、大田区の生涯学習の現状と課題について認識していただきたい。

【委員】

- ・ 文化センター（利用団体の）連絡協議会の活動をアピールする場が少ない。文化センターごとに利用者と各協議会の会長の取り組みが違う。普段の不満などを引き出して、解消する場が連絡協議会だと思っている。事情を知っていて、解決していくためには、同じように活動している人間がそこにいることが必要。多くの方が、公の場に文句を言うときに興奮して強い口調になるが、それでは解決にならない。文化センターの事務所側からきちんとした説明がなされず、文句だけが口コミで広がるということが度々あった。それをなんとかしないといけない。
- ・ 大田区には、よそ者とうちの者の区別がある。女性よりも男性が優位。いろいろな会合で、話し合いがなく会長に一任ということが多い。会議がきちんとできるような民主的な世の中に地域ごとにしていかないといけない。
- ・ 弱者に対してというふうに言うが、決して弱いわけではない、ただ環境が不利だということ。例えば、デイサービスを利用している方が知的満足に飢えている。認知症があるから子ども扱いして良いということにはならない、知的満足を得たいという方が多い。
- ・ 対話、おしゃべりをするのが満足度につながる。設備が整っているから、建物がきれいだから満足するということではない。そこで働く人たちが利用者に言葉がけをする、楽しい一日を過ごせるように促す能力があるかということが重要。
- ・ アンケートから現状と課題をまとめた形が非常にわかりやすく、課題を浮き彫りにしていた。14ページの生涯学習を行う目的の部分で、自らの学びを地域、社会に生かしたい人が少ないことがわかった。学びをいかに地域づくりにつなげるかという課題がみえてきたと思う。
- ・ 今あった、地域への貢献についてだが、洗足池図書館で絵手紙の掲示をして、発表をしている場がある。お話し会もある。普段の活動の発表の場として図書館が役立っている。そのような取り組みを大田区の施設で

できないか。地域ごとに身近な施設がオープンされている、そういう支援が必要ではないかと思う。

- ・ 活動の場所として、文化センターが主な場となっており非常に活発に活動が行われている。しかし、図書館の多目的室や自治会会館なども地域に開かれ、活動ができるようになっていくと良い。学校開放がなされているが、もっと借りやすいようになったほうが良い。
- ・ 現状と課題は、とても充実していて参考になった。丁寧にまとめていると感じた。
- ・ 5 ページ年齢別人口について、人口そのものが増えているということが、大田区の特徴ではないかと思う。現状の表では、人口の割合が見えるグラフになっているが、人口そのものが増えていることも特徴として捉えるのであれば、図の形式を検討しても良いのではないか。年齢別の割合に注目するならこのままでも良いが、人口減少と言われる中で、増えているということの特徴として捉えるなら、それを示す表があっても良い。
- ・ アンケートの中の潜在的生涯学習実行層、生涯学習意向層について、それがどういう人を抜き出したのか定義があるとわかりやすい。
- ・ 特色からみた現状と課題について、内容はとても整理されてまとまっている。課題に寄せるか現状に寄せるかによって、タイトルの書き方が変わってくる。今後、学ぶ意欲のある区民が多いということが検討されるが、体系や実際の施策に反映されるか見るときに、例えば、学ぶ意欲のある区民が多い、けれども情報が十分浸透していない、きっかけづくりや学習機会をもっと充実させる必要がある、デジタル媒体を効果的に活用しなければいけない、など課題よりのタイトルにしたほうが、実際にどういう施策が必要かということ表現するとき、橋渡ししやすいように感じた。
- ・ 今回、調査結果やまとめについて伺ったが、3 ページにある生涯学習の定義、生涯学習と地域力の関連性について、人と人とのつながりが広がったことによって、個人がまた豊かになったり、地域力が向上することによって、人と人とのつながりが広がったりというような双方向のイメー

ジが持てるような気がしており、矢印が一方向だけではないのではないかと感じ、地域力と学び、つながりの関係性を再検討してほうがよいのではないかと感じた。

- ・ 送ってもらった骨子案を見て疑問に感じたことをあげる。一つ目、アンケート調査について、3000人にアンケートをしているが、年齢層を区分けしているか。
- ・ 資料の13ページで生涯学習の実行意欲が約7割を占めたとあるが、自分が地域と関わっている印象では、A施設で会った人とまたB施設で会うという、いつも同じ顔触れである。色々な面で情報を巡らせている人が常に同じであって、情報が届いていない人が意外と多いのではないかと感じている。
- ・ 基本理念について、誰もが生きがいを持って暮らせるということは、重要だと考えている。

【事務局】

- ・ アンケート調査は年代別に抽出して実施している。

【会長】

- ・ 今回のアンケートは、統計学的に適切な形でサンプリングされている。
- ・ 団体向けアンケートの回収された票数について、直感的に少ないと感じた。多分文化センターなど小規模な施設でしっかり学んでいる方がもっといるが、アンケート結果に反映されていないのではないかと。
- ・ 文化センターの中で苦情を受けるという話があったが、そこから本当はどういうことをしたいのかを引き出していかないといけない。文化センターでのコーディネート機能の重要性を指摘いただいた。
- ・ 活動場所については、いろいろなアンケートからも足りていない、量的に実行されていないという傾向が良く出る。

【委員】

- ・ 大田の特徴が少しずつ見えてきた。「地域力」という言葉について、よく理解できなかったが、生涯学習の捉え方ということで、色々な資源を全て活用して、推進していこうということなのだと感じた。

6 議題2 基本理念・施策体系（案）

【会長】

- ・ 議題2について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

- ・ （骨子案に基づき説明）

【会長】

- ・ 事務局からの説明について、ご意見、ご質問があれば発言をお願いしたい。

【委員】

- ・ 講座に何度か参加しているが、専門家の一方的な講義であることが多い。継続的に悩みを聞く部分と知識を与える部分が一緒になっていないといけなと感じた。
- ・ 多くの講座は、一時的なものが多い。知識は、インターネットで調べれば出てくるが、ある先生が何十年もかかって作り上げたものと違う。大田区では工場と同じ仕事をずっとやってきた人の技術と考え方、生き方みたいなものに触れる、ということが出来る。将来の人たちを育てるためには、大人が真剣になって、現状を伝えたり、誰もが持っている専門性を伝えたりする場を企画していったほうが良い。
- ・ 自分の母が区の講座に参加したときに、女学生時代に学んだ源氏物語を学んで、楽しい時間を過ごしたいと思って参加した。ところが、参加した感想は、止めたいとのことだった。理由を聞いたら大学の講義と同じだったとのこと。楽しみをもって通えることが重要。知的階層が求めるものと市民が求める講座の内容は異なるかもしれない。学問の世界と離れていることが多く、ハードルが高いと感じた。

【会長】

- ・ 福祉分野も生涯学習と通じるものがある。利用者のちょっとしたつぶやきを汲み取り、利用者の多様性を大事にするということが大切。
- ・ 事務局から提示された基本理念が3案あるが、ここで決めるというわけではないが、大体の方向性を伺いたいと思っている。29ページ以降の具体的な施策について、現状をふまえた議論をしていただきたい。

【委員】

- ・ 基本理念については、3つ案がある。大田区は地域性が非常に強い。案1が好ましいと思う。
- ・ 区の生涯学習の情報紙作成のために取材に行った経験があるが、おおた区民大学を受講した方々が、団体を作って20年以上継続している状況を多くみた。アンケートで活動に関心をもっている人が8割いるが、実際にやっていない人が多い。地域で身近なところで一緒に活動することで、関心を持つようになると思われる。あらゆる区内の場所を提供してもらいたい。
- ・ 外国籍の方への学習機会の提供に言及されていることが珍しいと思った。外国籍の人が身近な場所で活動したり、日本人と交流したりできる場を設けることが大切。大田区らしい施策となると思う。

【事務局】

- ・ 外国籍の方への学びの配慮について、協会や専門の部署が機会を設けている。庁内委員会に国際都市・多文化共生推進課長も入っているので、連携して進めていきたい。

【委員】

- ・ 外国籍というと言語の問題となるが、日本語教室は卒業している人を対象に、港区ではそれぞれの国の民話を題材にした発表会をやっている。国によって、発音が苦手なところがあるが、それを細やかに解決してもらえない。日本語が話せる外国籍の方に参加してもらい、日本語が話せない人へのサポートに参加してもらうなど、日本語教室にとどまらない支援が必要。外国から様々な事情できた人と日本人が同じような趣味で触れ合うことが大切。
- ・ 生涯学習というと敷居の高い勉強会を区主体で推進している印象を持っていたが、町会でも学習サロンなどをできるのではないかと感じた。
- ・ 生涯学習計画を策定するにあたって、学びを地域力にも反映させるという意識でいるのであれば、地域としても支援しないといけないと思った。地域の安全、高齢者の見守り、住環境の整備のほか、地域の文化を高めたり、人のつながりをつくったりすることも活動の一環である。

- ・ まちのサロンとして、自分の地域でも洋画教室や料理教室を行っている。身近なところが学びの場だという解釈であれば、地域としても地域の学習を支援していきたい。
- ・ せっかくこういう計画を作っても、区民に身近な感じをもたれないと近寄りづらい。こんなことをやってみようとか感じられるよう身近なイメージを大切にしてほしい。
- ・ 生涯学習と同じように生涯スポーツという言葉があるが、スポーツは生涯学習に含まれるか。

【事務局】

- ・ スポーツも生涯学習に含まれると定義している。

【委員】

- ・ 生涯スポーツ論の中で健康寿命を長くする、とある。健康は体だけではない。理念の中に、心身ともに健康にという要素が含まれると良いと思う。スポーツも学習の中に含まれると表現できれば、もっと身近なものになる。

【会長】

- ・ スポーツも生涯学習に含まれる。学習が心身の健康につながるということを施策に書き込んでも良いと思う。
- ・ 地域で学習を応援してもらうのは、非常に良いと思う。地域に根付いて活動している団体が減少している傾向にある。地域に根付いた活動が町会・自治会の支援のもとに多く行われると、非常に好ましいと思う。

【委員】

- ・ スポーツとか学びによって健康寿命に反映するという、学びそのものが人生を豊かにするというのは、非常にわかりやすいので、区民がイメージしやすいように表現したほうが良いと感じた。
- ・ 施策方針1から3のうち、1に個人の学びの充実が打ち出されたのは、とても良いと思った。
- ・ 施策方針の一つに個人の学びの充実と出ているのは、双方向の思想が反映されていると感じた。個人から地域、集団に様々な学びが反映していくと同時に、最後に個人にフィードバックされ、個人が本当に幸せな生

活をしていくというのが基本だと思うので、とても良いと感じた。

- ・ 地域に根差した団体がどこでも少なくなっている。学習している団体の高齢化、担い手不足などについて、どのように活動の持続化を図るのか、という視点が重要。どのように解決したらよいか、相談、新しい気づきをどのように作るか、ファシリテートの機能、情報として解決した多様なプロセスが拡散していくことが重要。
- ・ 新しい学びの担い手をどう育成するかということも課題。こちらは、推進体制の構築に関わる。
- ・ コロナ禍で発表の場、集まるのが困難な状況であるが、今の状況が変わったときに、どういう形で施設を使うか、発表していくのかというのが問われる。施設の使い方なども検討していった方が良い。

【会長】

- ・ 今の発言について、事務局から発言があればお願いしたい。

【事務局】

- ・ 施設の中でのコーディネート機能が重要ということは課題としてとらえている。
- ・ 個人の学びの充実について、最近では学びがどうしても地域に還元しないといけない、手段と化してしまう傾向があった。個人の学びが基本、個人の学びを充実させることから自然と地域とのつながりが育まれるということも、アンケート結果からもわかったのではないか。個人の学びが充実することによって、つながりが増えて地域に還元されて、そこでつながることによって個人の生活が充実していく、循環していくということを基本に計画を策定していきたい。
- ・ 今後の施設の活用のあり方について、大田区では複合施設をいくつか計画している。子育て、文化、区民活動、高齢者施設といった様々な機能が入るが、それぞれの目的をもって集まる人が交流するために、フリースペースなどが必要と考えている。また、学びをきっかけに人が交流できるのではないか、ということで、複合施設には生涯学習コーナーを設けて、そこに目的なく来た人も、目的があってきた人もいろいろな情報が得られて、人とつながったり、新たな学びのきっかけになったりする

ような場を設けていきたいと考えている。

【会長】

- ・ 新蒲田の複合施設にも、生涯学習コーナーが設置される。まさしく、コーディネーター、ファシリテーターとしての機能を期待するとともに、そのあり方については時間をかけて検証していく必要がある。

【委員】

- ・ 新たな施設を作ることが非常に困難な状況なので、様々な資源が100%活用されているのか、という視点が重要。さらなる施設利用の拡充に係るアイデアを出していく必要がある。
- ・ 新しい学び（eスポーツ等）にはどう取り組むかについても検討する必要がある。

【事務局】

- ・ eスポーツについては、区のスポーツ施策で検討されている。またこども若者の居場所づくりという議論の中でも、eスポーツの可能性について認識している。

【会長】

- ・ コロナ禍でITによる学びを経験した人が4割もいるというのが、アンケート結果で出て驚いている。ITを活用した学びというのは、今後免れないと思っている。

【委員】

- ・ 健康体操はスポーツに入るのか。現状として、文化センターでは、今までの活動ができなくなっているが、健康体操はコロナ禍でも残っている。サークルが減少しているが、麻雀サークルが増加している。一つの文化センターでも4つくらいある現状。麻雀をやるための場所の取り合いが起こっている。理由が何であれ地域に出てくるのが重要。
- ・ 生涯学習という言葉には固いイメージがある。身近な印象をもってもらうようにしていく必要がある。健康教室の倍率が非常に高い。教室自体へのニーズが非常に高い。ラジオ体操が非常に盛ん。
- ・ 小中学校の学習指導要領にも、主体的、対話的で深い学びという言葉が入っている。本日の議論の中でもあった一方通行ではない授業を学校では行

っているので、非常に良いと感じた。

- ・ 保健体育の指導要領に生涯スポーツという言葉が入っているので、そういうものも参考にしてほしい。
- ・ 学校施設の利用について、学校の中には地域集会室や会議室があり、貸し出せる状況になっているが、受付を全て副校長が担っている。学校側の負担軽減についても検討が必要。
- ・ 28 ページの基本理念に「一人ひとり」という表記があるが、東京都教育委員会の教育理念の中には、一人一人という表記となっている。参考までに、それに縛られる必要はないと思うが、補足する。
- ・ 小さな語らいの場を生涯学習ととらえる、小回りの利く機会の創出が重要。語らいの中で何かが生まれるというのが良い。行政は計画に基づいて事業を推進していくので、年間、先の話になってしまいが、本日の議論で出てきたところは、語らいの中で、いいね、やりたいね、となったときにそれができるという小回りが必要だと感じている。そういった場の候補として町会・自治会があると感じた。町会が発案した講座を支援する制度がある自治体がある。
- ・ 団体については、覚悟を決めて、新陳代謝を図ることも大事だと感じる。閉じることは非常に難しいが、上手な閉じ方を共有する、気楽にいざとなったらやめられる、そこから新しいものが生まれてくるというようなこともあると感じた。
- ・ 地域で活動されている皆さんならではの問題意識や現状の課題を伝えていただいたので、それをぜひ施策の方針とか、中身に生かしていただきたいと思った。
- ・ 基本理念3案について、特に今日の議論を聞いて思ったが、もっと大田区らしさを出しても良いと個人的に感じた。
- ・ 基本理念は、この生涯学習計画の目指すあり方、方向性、目標みたいなこととして捉えると、現在の案は全体を構造的に文章化しているが、施策体系で3つの方針が出ており、関係図もあるので、ある程度、構造は見えているということで考えると、基本理念はもう少し攻めるというか、特徴を出すというか、あるいはどこに新しさを出して、どういうことを目指すの

かというところを少し、先ほど意見があった区民に身近にこの計画を感じてもらえるように、言葉を選んでも良いのではないか。カラーを出すのは、難しいことだと思うが、これができれば計画全体がより引き立つと思う。

- ・ 施策方針がとても整理されていて良いと思ったが、施策方針 2-1、2-2 に、学習成果という言葉があるが、先ほどの議論の中でもあったように、成果を共有する、成果を生かすだけではなく、その過程、最初と最後、終わりか、途中か、というのはダイナミックな生涯学習の特性なので、あえて成果という言葉を出す必要があるのか、と感じた。
- ・ 現状と課題が施策方針にしっかり反映されているかということ、これから計画を仕上げていく過程で見たい。

【副会長】

- ・ 色々な経験のある方々から区の生涯学習を思ったうえでの発言が出て、非常に貴重だと思った。
- ・ この会議の焦点は、地域力である。生涯学習を通じて地域力を生かしていないといけない。
- ・ 首都圏全体で 3,700 万、東京で 1,300 万もの人がいるが、流動的なので、きちんとしたコミュニティができていない。また、この失われた 30 年間の間で、さらに地域のつながりが失われて、現状、東京を含めて日本には約 100 万人もの人がひきこもりの状態にあると言われ、多くの方々が家からコミュニティに出てこられないという大きな問題を抱えている。
- ・ 本日出席している委員は、さまざまな経験がある方ばかりだが、若い人が不在である中で、会議が進行している。議論の中にあつた e スポーツなど若い方々が関心を持つこと、またコロナ禍で出てきたオンラインでの対応は今後に残ると思われるので、対面が苦手な人への対応という意味でも、その部分を尊重することが本当の意味での多様性の尊重と言える。
- ・ 外国人の方々についても、地域によって状況が異なる。障がいを持った方や外国人に参加してもらおうということ、基本理念案 1 にある一人ひとりの学び、外国人、障がいを持った方、LGBT の方々も含めて、それぞれ学んでいくという視点が大切。
- ・ 健康の増進についての議論もあったが、高齢の方々の健康を増進すること

とあわせて、若い方々の心の健康もかなり深刻なものがあるので、その方々の意見を取り入れる必要がある。

- ・ 施策体系の中で、IT、eスポーツを含めて、若い方々がコミュニティに参加してもらおうという視点を入れないといけないし、多様な方々の参加を促すという点でいうと、基本理念案1の文章が極めて近いのではないかと思う。

【会長】

- ・ 非常に良いしめくりをしていただいた。
- ・ 基本理念案について、案1が良いのではという御意見もあったが、3つの中から選ぶというよりは、大田区らしさ、をもう少し訴えるような文言にしてほしいという意見があった。基本理念については、もう少し事務局で検討してもらうが、検討の際にこういうことを考えてほしいとか、そういう御意見があったら承りたい。

(意見なし)

- ・ それでは、事務局から提示される案を次回策定会議にて再検討したい。

7 閉会（傍聴人退室）

【事務局】

- ・ 傍聴人の皆さま、お帰りの際に、資料の返却をお願いします

(傍聴人退出)

以上